

派遣専門家オリエンテーション資料

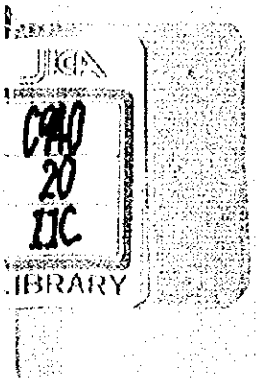
カザフスタン

REPUBLIC OF KAZAKHSTAN

任国情報

1994年

国際協力事業団
国際協力総合研修所



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

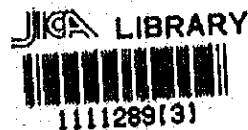
本書の刊行にあたっては外務省、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成 6年 3月

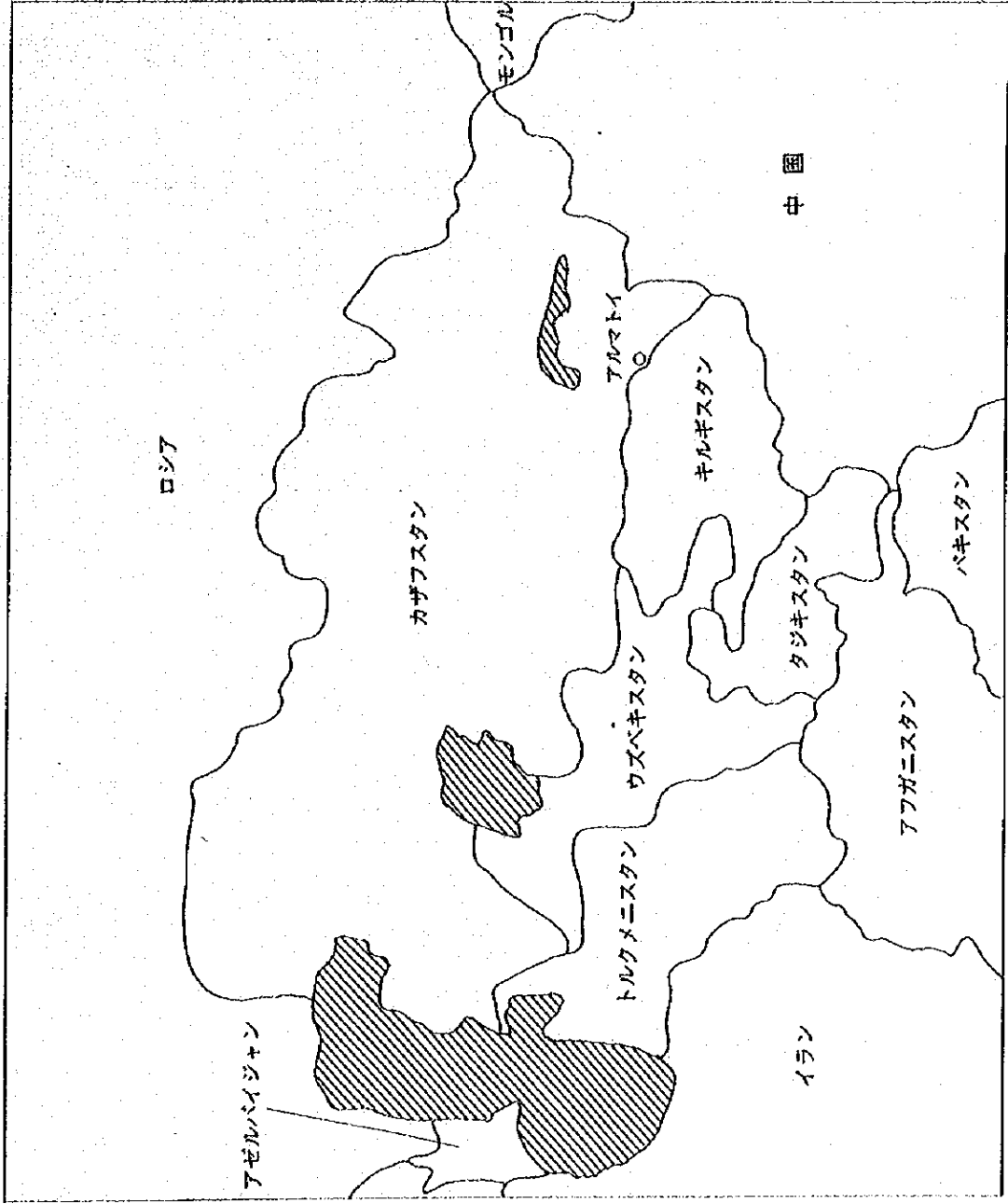
国際協力事業団
国際協力総合研修所長



国際協力事業団

25954

カザフスタン



目 次

I 一般事情

1. 主要指標	1
2. 略 史	2
3. 政治、外交	3
4. 経済事情	4
5. 我が国との関係	7

II 生活事情

1. 食生活	9
2. 衣 料	11
3. 住 宅	12
4. 医 療	14
5. 教 育	16
6. 家庭の使用人	17
7. 交通事情	18
8. 通 信	19
9. マスコミ	20
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	21
11. その他のサービス	22
12. 観 光	23
13. 治安、緊急時の心得	24
14. 出入国手続および帰国手続	25
15. 私財の輸送、引き取り、購入	26
16. 社 交	27
17. 任国官公庁	28
18. 在外日本関係機関など	29
19. 地方都市	30

I 一般事情

1. 主要指標

- | | |
|-------------|--|
| 1-1 国名 | カザフスタン共和国
Republic of Kazakhstan |
| 1-2 独立 | 1991年12月16日 |
| 1-3 首都 | アルマトイ Almaty |
| 1-4 面積 | 人口 116万人 (1991年)
271万 7,300平方キロメートル (日本の約 7.2倍) |
| 1-5 気候 | 大陸性の気候で、夏は暑く冬は寒い。山間部は気温が低く降水量が多いのに対し、低地の砂漠地帯は比較的温暖で雨は少ない。 |
| 1-6 人口 | 1,710万 4,000人 (1992年 7月)
人口密度 1平方キロメートル当たり 6.3人 |
| 1-7 人種構成 | カザフ人39.7%、ロシア人37.8%、ドイツ人 5.8%、ウクライナ人 5.4%、ウズベク人 2.0%など (1989年 1月) |
| 1-8 言語 | カザフ語 (公用語)、ロシア語 |
| 1-9 宗教 | イスラム教 (スンニ派)、ロシア正教 |
| 1-10 政治 | |
| (1) 政体 | 共和制 |
| (2) 元首 | ヌルスルタン・A・ナザルバエフ大統領
(Nursultan A. Nazarbaev、1990年 4月就任、91年12月再選) |
| (3) 議会 | 1院制の最高会議 |
| (4) 政党 | カザフスタン人民会議、社会党 (旧共産党)、アザト (自由)、イスラム復興党 |
| 1-11 経済 | |
| (1) GNP | 416億 9,100万ドル (1991年)
1人当たり 2,470ドル (1991年) |
| (2) 主要産業 | 鉱業、製鉄業、農業、工業 (化学・機械工業)、電力生産 |
| (3) 貿易 | 輸出 9億 6,640万ドル (1992年 1～ 9月)
輸入 3億 4,650万ドル (1992年 1～ 9月) |
| (4) 財政 | 142億 5,400万ルーブル (1989年国家予算) |
| (5) 通貨 | 通貨単位 テンゲ (旧ルーブル紙幣とテンゲの交換は1993年11月20日までで、交換比率は、1テンゲ 500ルーブル) |
| (6) 外貨準備高 | |
| (7) 対外債務 | |
| 1-12 日本との時差 | 時差は 3時間で、日本の正午は午前 9時である。 |

2. 略 史

- 19世紀 清朝（中国）やロシアからの軋轢の末、帝政ロシアの支配下に入る
- 1920年 ロシア共和国内の自治国として成立
- 1925年 カザフ自治共和国に改名
- 1936年 カザフ・ソヴィエト社会主義共和国としてソ連邦構成国になる
- 1990年 主権宣言を採択

3. 政治、外交

3-1 最近の政情

カザフスタンの社会が比較的安定しているのは、ナザルバエフ大統領が国民に強く支持されていることが大きい。同大統領は複雑な民族構成を踏まえ、ロシアとの協力を掲げて、中庸で穏健な政治を目指しており、国内の各民族・政治団体からの広範な支持を得て、政治・経済の民主化に強力な指導力を発揮している。

核の移転問題については、1991年12月のアルマアタ合意に反し、ウクライナが戦術核のロシア移転停止を決めたため、92年4月、ナザルバエフ大統領は戦略核のロシア移転を拒否した。しかし、5月15日にロシア、カザフスタンなどCIS 7ヶ国が集団安全保障条約に調印したのを受けて方針を転換、同24日にカザフスタンは戦略核をロシアに集めて廃棄し、核拡散防止条約(NPT)に調印するとの内容の第一次戦略兵器削減条約の議定書にリスボンで調印した。

3-2 外 交

カザフスタンの人口の約4割がロシア人であることから、ナザルバエフ大統領はCISの分裂を避けるとともに、ロシアとの協力関係の維持に力を入れている。トルコやドイツとの関係も深い。1992年5月25日にはロシアとの間で、CISの2国間条約として初めての有効期間25年の友好協力相互援助条約に調印した。条約は、両国共通の戦略空間の創設や基地の共同利用、現国境の維持や経済協力などを定めている。

1992年2月、イランとカザフスタンなど5ヶ国がカスピ海の協調利用の経済協力機構の設置で合意、3月、国連加盟、4月、IMF加盟、5月、ユネスコ加盟、11月、非アラブのイスラム諸国で組織する経済協力機構(ECO)に加盟するなど活発な外交を展開している。

なお、1992年5月、ナザルバエフ大統領はアメリカを訪問、ブッシュ大統領(当時)との間で両国間の協定に署名した。協定には両国間の最恵国待遇、アメリカ企業の対カザフスタン投資保険、投資保護協定などが含まれている。

4. 経済事情

4-1 概 観

カザフスタンの経済はひと言でいえば、恵まれた鉱物資源（非鉄、エネルギー）と広大な農地に支えられた経済といえる。

カザフスタンの経済ポテンシャルは高いが、旧ソ連市場での取引減少が経済に打撃を与えている。1992年の経済実績によると、同国の国民所得は、前年比14.2%減であった。鉱工業生産も同14.8%減と落ち込んだ。インフレも進んでおり、92年12月の小売価格は前年同月の15.4倍に達した。

市場経済の導入については、積極的である。

4-2 産 業

1990年の産業構造（社会総生産のシェア）をみると工業46.3%、農業28.5%、建設13%、運輸・通信7.5%、商業4.3%である。

(1) 農 業

穀物生産は小麦を中心に年間2,000万～3,000万トンを生産、周辺地域にも輸出している。フルシチョフ時代の処女地開拓で播種面積が大きく拡大したが、気候変動が大きく、降水量が少ないために早魃の影響を受けやすく、生産の増加率は低い。

穀物の主産地は北部のクスタナイ州、コクシェタフ州および北カザフ州で、これら3州で生産の半分を占める。

また、畜産は着実に伸びている。

表1 主要農畜産品生産高

(単位：1,000トン)

	1985年	1990年	1991年	1992年
食肉(加工)	665.0	899.0	846.0	519.0
動物油	69.3	85.1	76.0	60.7
全乳製品(牛乳換算)	1,225.0	1,470.0	1,377.0	952.0
植物油	74.1	952.0	101.0	55.7
砂糖	337.0	321.0	307.0	153.0
穀物(最終製品)	22.7	28.5	12.0	29.5
原綿	305.0	324.0	290.0	246.0
じゃがいも	2,197.0	2,324.0	8,958.0	8,966.0
野菜	1,085.0	1,136.0	955.0	992.0
果物	133.0	301.0	98.0	148.0

(注) 穀物の単位は100万トン。

(2) 鉱 業

カザフスタンはロシアに次ぐCIS第2位の産油国であり、可採埋蔵量は20

億トンと推定されている。また、石炭の埋蔵量は、約 340億トンと推定されている。石油・ガス資源は西部のカスピ海北部および東部に集中している。

電力は、豊富な石炭資源を利用した火力発電所が多く、水力発電は 8%程度である。

非鉄金属の宝庫で、クロム鉱、タングステン、鉛、銅、亜鉛、ボーキサイト、コバルト、ニッケル、チタン、金、銀など豊富かつ多彩である。特にクロム鉱の産出では南アフリカ共和国に次ぎ世界第 2位といわれている。

表2 エネルギーの生産量

	1985年	1990年	1991年	1992年
電力(10億キロワット時)	81.3	87.4	86.0	81.3
石油(100万トン)*	22.8	25.8	26.6	25.7
天然ガス(10億立方メートル)	5.5	7.1	7.9	8.1
石炭(100万トン)	131.0	131.0	130.0	172.0

(注) *はガスコンデンサート(圧縮液化ガスなど)を含む。

(3) 工業

鉄鋼業は、カラガンダ近郊のテルミタウに所在するカラガンダ製鉄所が一手に担っている。計画生産能力は粗鋼 580万トン、鋼材 440万トンで、現在は銑鉄 400万トン、粗鋼 600万トン、鋼材 420万トンの生産量で稼働、ブリキ生産が主体となっている。

機械工業では、農業機械が生産の30%を占めてトップであるほか、電気機械と電気器具が各10%、鉱業用機械設備、ガス機器、道路建設機械が各 5%といった割合で、製造品目に片寄りがある。

化学・石油化学工業は近年発展を遂げてきた部門である。鉱物肥料、硫酸、ソーダ灰、ポリスチロール、ゴム製品、化学合成繊維、プラスチック、洗剤、クロム化合物などが主要製品である。

主要な工業製品の生産高の近年の推移は以下の表 3のとおりである。

表3 主要工業製品生産高

	1985年	1990年	1991年	1992年
鋼材(100万トン)	4.2	4.9	4.7	4.3
金属加工機(1,000台)	2.8	2.6	2.4	1.6
トラクター(1,000台)	54.6	41.1	34.1	13.4
化学肥料(100万トン)	1.4	1.7	1.5	0.9
化学繊維(1,000トン)	21.0	17.4	11.3	8.5
紙(1,000トン)	10.8	1.5	1.0	0.7
セメント(100万トン)	7.5	8.3	7.6	6.4
繊維品(100万平方メートル)	289.0	325.0	249.0	228.0
靴(100万足)	32.3	36.5	34.1	23.1
テレビ(1,000台)	—	—	4.8	1.8

4-3 財 政

1989年の国家予算は 142億 5,400万ルーブルである。

4-4 貿易、国際収支

1992年 1～9月の輸出は 9億 6,640万ドルであり、その 8割近くは鉱物資源が占める。このほかでは化学製品、繊維などが主な輸出品である。主な輸出相手国は中国（輸出全体に占めるシェアは18%）、スウェーデン（同16%）、アメリカ（同7%）、ドイツ（同6%）、スイス（同5%）などである。

一方、同期間の輸入は 3億 4,650万ドルであり、その大半は農産製品、飲料、タバコなどの食料品である。ほかには機械設備、動物、化学製品などの輸入が多い。輸入相手国をみると、やはり中国が全体の48%を占めてトップで、以下、フィンランド、旧ユーゴスラヴィア、オーストリア、ハンガリーと続いている。

5. 我が国との関係

5-1 政治、外交

我が国は、1992年1月26日にカザフスタンと外交関係を樹立、93年1月アルマトイに大使館を開設した。

1992年5月には渡辺外相（当時）がカザフスタンを訪問している。

5-2 経済、貿易

我が国の対カザフスタン輸出額は2,800万ドル、同輸入額は1,400万ドルである。

5-3 経済・技術協力

我が国は、ソ連崩壊後のあらたな国際情勢のもとでのアジアの一角としての中央アジア地域の重要性に鑑み、これら5ヵ国の民主化および市場指向型経済導入の努力を積極的に支援していく方針である。中央アジア諸国は1993年1月1日よりOECD開発援助委員会（DAC）途上国リストへ掲載されたが、これは、中央アジア諸国5ヵ国に対するODA供与に道を拓くため、我が国がDAC諸国に対してこれら諸国のDAC途上国リスト掲載を積極的に働きかけた結果であり、我が国が中央アジア支援を重要視していることの表れである。

中央アジア諸国に対する協力は、これら諸国が社会主義体制から市場経済体制への移行期にある国であり、ソフト面での協力がより重要であると考えられることから、当面は中央アジア諸国のニーズを踏まえ、技術協力の分野で、人遣い（研修員受入れ、専門家派遣など）、計画作り（開発調査）などを中心に協力を実施していく考えである。また、有償資金協力については、民主化・市場経済化へ向けた改革を進め、経済構造調整プログラムにつき世銀・IMFとの合意を達成した国については、世銀など国際金融機関との協調融資を行なうことを検討するとともに、プロジェクト型円借款についても、経済開発計画に明確に位置づけられ、成熟度の高い案件については供与の可能性を検討していく考えである。無償資金協力については、1人当たりGNP水準の高さなどに鑑み、いずれの国に対しても1993年度の一般無償資金協力の実施は原則として困難であるが、GNPの数値が今後変化し無償資金協力の供与適格国になった場合には、供与の可能性を検討していくことになる。

我が国は、旧ソ連支援の一環として、中央アジア諸国がDAC途上国リストに掲載される以前の1991年から、研修員受入れ、専門家派遣などを実施し、92年10月の旧ソ連支援東京会議において表明したNIS諸国に対する1億ドルの緊急人道支援の一部を中央アジア諸国にも配分してきた。また、92年にキルギスタン、93年にカザフスタンに対し災害緊急援助を実施した。

DAC途上国リスト掲載後の1993年2月、我が国は、経済協力の本格的実施に備えるため、我が国の経済協力学スキームについて先方政府の理解を得るとともに、各国の経済改革進歩状況の調査、援助ニーズの把握を行なうことを目的として、関係各省庁・機関総勢30人からなる経済協力調査団を派遣した。当時、中央アジア各国とも市場経済移行への対応に苦慮していたが、その対応ぶりにはかなり差異がある。

さらに我が国は、案件の発掘などを目的として、1993年6、7月のカザフスタン、ウズベキスタン、キルギスタンに対するプロジェクト形成調査団の派遣、93年5月からの企画調査員の派遣などを実施し、本格的協力に向けた開発調査案件の形成などの準備を行なうとともに、92年10月の旧ソ連支援東京会議において表明した中央アジア5ヵ国に対する3年間で合計300人の研修員受入れを順次開始している。

Ⅱ 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

食料品は一般的には品薄であり、特に調味料や食物油類は不足が目立っている。

主食となるパンや肉類、じゃがいもなどは十分に出回っている。魚などの海産物は、時折トラックで直売にくる川魚を除いて、入手はほとんど不可能である。

夏季には野菜、果物などが豊富となるが種類はそれほど多くなく、冬季は極端に品薄となる。

食料品の購入は国営の食料品マーケットもあるが、品数、鮮度、便利さから市内のバザール（公営マーケット）で買うのがもっとも便利である。そのほか、輸入物の菓子やジュース、ビールなどを販売するための道路脇のキオスクが普及している。

(2) 主な食料の出回り状況

米は時折市場に出回っているが、石が混じるなど精米の程度が悪く、味も悪い。

野菜は季節によって出回るものに違いがあるが、夏季はキャベツ、タマネギ程度であり、大根、長ネギ、白菜などの野菜は売られていない。果物はリンゴ、ブドウが夏季に出回る。

肉類については、牛肉、鶏肉、羊肉が豊富に売られているが、豚肉については入手がむずかしい。

牛乳はパック詰めのものではなく、売られているものは衛生上問題があるものも多い。そのほかヨーグルトなどの乳製品も豊富に売られているが、いずれも加工の程度はよくない。

酒類は国産のウオツカ、コニャックが豊富に売られているが、国産のビールは味がよくない。輸入缶ビール、中国製瓶入りビールがレストランなどに出回っている。また、缶入りコカコーラが通りのキオスクで購入できるほか国産の瓶入りペプシコーラが手軽に購入できる。

(3) 食料の入手

市内には郊外も含めて数多くの青空マーケットが開かれ、食料品の売買が行なわれているので、食料品の購入は、このバザールを利用するのが便利である。

国営の食料品店は品数も少なく、値段も統制価格で安いことから長蛇の列ができることが多い。

ドルのみが通用する外貨ショップには缶詰、菓子、一部の調味料などが売られている。

1-2 食器・調理器具など

(1) 食器・調理器具などの入手

茶わん、皿などの陶器は、中国製の安いものが売られているが種類は多くない。やかんや鍋も売られているが中国製が多く、粗雑なものが多い。スプーン、フォークも簡単に曲がるものがほとんどである。

(2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

現地で購入できるものは、品質上、粗悪なものが多く、できれば日本から持参するのがよい。特に調理器具のなかでも電化製品については、現地で調達可能なものはまったくといってよいほどない。

家電使用のための電圧は、220ボルトであるが、変圧器の現地購入も不可能である。

1-3 外 食

(1) 飲食店

外国人がよく利用するレストランは、次のとおりである。

韓国料理店——カザフスタンホテルの1階にあり、韓国人の経営で、焼き肉、冷麺、ビビンバなどの韓国料理が食べられる。レストランは大フロアとなっていて、食事をしながら民族舞踊などのショーが楽しめる。支払いは、ドル払いである。

中華料理店——「審陽飯店」、「シルクロード」のほか1店があり中華料理が食べられるが、材料が入手困難なことから本格的な中華料理とはいえない。麺類はいずれの店でも作っていない。

イタリア料理店——カザフスタンホテル向かいのビジネスセンター2階にある比較的小さな店であるが、スパゲッティ、パスタ、サラダなど値段も安くおいしい。外国人居住者の客が多く、昼、夜ともに予約をしないと待たされることとなる。

オーソラルホテルレストラン——インツーリスト系のホテルレストランであり、メニューが豊富で安い。

ドステーキホテルレストラン——アメリカとの合弁のホテルのレストランであり、本格的なアメリカ料理といった感じで、ステーキやその他の正統西欧料理が楽しめるが、値段はやや高い。ドル払いである。

(2) その他の飲食店

街なかにはカザフ料理を出すレストランがいくつかあり、郷土料理のラグマン(マトンの入ったうどんのようなもの)やマンテ(肉まん的一种)が食べられる店もある。

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

大陸性の内陸気候のため季節による寒暖の差が激しく、夏は40℃（8月）に達することもあるれば、冬はマイナス15℃くらい（1月）となることもある。したがって夏、冬に備えた衣料の準備が必要であり、特に冬は防寒着が必須である。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

すべての衣料品について、日本から持参した方がよい。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

輸入品以外は粗雑であり、任国で調達するより日本から可能な限り持参した方がよいと思われる。

(4) その他の留意点

冬はスキー、スケートが楽しめることから、スキー服、スケート用具もあるとよい。

2-2 礼 装

(1) パーティ

特別な服装は用いない。

(2) 式 典

特別な服装はない。

(3) その他の冠婚葬祭

葬儀はイスラム式の葬儀であり、モスクで執り行なわれるが、服装については特に決まったものはない。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗 濯

クリーニングサービスは少なく、街なかでみつけることはむずかしい。スーツなどのクリーニングは生地が傷むので注意を要する。

水道代が安いので洗濯機は全自動でもよいが、家屋構造は排水栓がないものがほとんどである。

(2) 仕立て、修繕

仕立て、修繕をしてくれる店はない。

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

旧ソ連の住宅政策は集合アパートの建設に重点がおかれたために、アルマトイなどの都市部の一般的な住宅は、そのほとんどがアパート形式であり、なかでも5階建てくらいのエレベーターなしの造りが多い。

近年は新規住宅投資がなされていなかったせい、ほとんどの一般居住用のアパートは築後年数が古く、建築技術も粗雑であり、外観も内装も古びたものが多い。窓ガラスにアルミサッシが使われているものはまったくない。これらのアパートは国有であるが、近年、徐々に払い下げにより個人所有となってきた。一般家庭での平均的な居住面積は60平方メートル程度であるが、両親、親族との同居が多い。こうしたアパートに居住しながら郊外に別荘(ダーチャ)を持ち、夏季の週末は野菜づくりや休養するためのダーチャで過ごすのが一般的である。

民間賃貸住宅の供給は少なく、特に外国人向けの物件は少ないため、探すのはかなり困難である。

(2) ホテル事情

旅行者、一般外国人の利用するホテルには、以下のものがある。

カザフスタンホテル——27階建ての高層建築で、外観は立派であるが、設備、サービスともによくはない。AMEX、VISAカードの使用ができる。

宿泊料は72ドル(シングル)で、テレビ、バス、冷蔵庫の設備がある。

ドスティークホテル——アメリカとの合弁の高級ホテルで、サービス、設備ともに問題はない。ホテル内にはビジネスサービスがあり、国外へのファックス送信やコピーサービスを提供している。カードによる支払いも可能である。

宿泊料は180ドル(シングル)である。

オートラルホテル——インツォリストのホテルであるが、最近はあまり利用されない。

(3) 住宅の探し方

外国人に住宅をあっせんするエージェントがあるので、ここを通すのが確実であるが、家賃は比較的高い。個人的に探せば安いものがあるが、至難の技である。

(4) 住宅の選定上の留意点

住宅構造は、治安上の対策はまったくとられていないので、選定にあたってはなるべくセキュリティを考慮して選んだ方がよい。また、契約にあたっては二重ロックやアラームシステムの設置が可能であり、警察へ連絡されるシステムがある。

アパートは古いものが多いので、給湯栓や排水管の状況、暖房用スチームの作動を確認した方がよい。

(5) 住宅の契約

契約はドル建て 1年もしくは 2年の一括払いとなっているケースが多い。家賃は単身用の1DK が月 800ドル、3DK が 1,500ドル程度であるが、家具の程度によっては 2,000ドルを越すこともある。持主が住んでいる家を貸す場合が多く、テーブル、ソファなどの家具はついている場合が多い。家賃は経済状況の激変のなかで急上昇中である。

(6) 電気、ガス、水道などの手続と管理

電気、水道は家賃に含まれるのが一般的である。

電話は使用料を払い込む必要があるが、市内電話の料金は非常に安い。

(7) その他

外国人の急増で、住宅は需要が供給を上回っていることから、家賃の変動が大きい。また、老朽化したものが多く、入居前に改修の必要のあるものが多い。

4. 医 療

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

特に必要な予防接種はない。

(2) その他の準備

一般常備薬については、携行する必要がある。特殊な薬剤についての現地調達ほとんど不可能である。

歯科治療は日本で済ませるべきである。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

病院は数多くあるが、設備も貧弱で薬品のストックも十分ではない。外国人が利用できるVIP専用の病院もあるが、医療費が高いうえに治療技術も信頼性に欠ける。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

携行できる医薬品については、全部持って行くことが望ましい。

(2) 任国で調達できる医薬品

かぜ、腹痛などの薬は売られているが、調達できる薬はきわめて少ない。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

現状では日本での出産が望ましい。

(2) 出産後の対応

飲料水などの衛生状態が悪く、乳児死亡率も高いこと、ミルク、乳製品の入手も困難なことから、出産直後の育児は困難である。

(3) 育 児

乳幼児食品の入手は困難である。

4-5 手 術

(1) 任国で可能な手術

あらゆる外科手術は、避けた方がよい。

(2) 手術設備の状況

外科手術の設備は、きわめて貧弱である。しかしながら旧ソ連時代からあらゆる外科手術が行なわれている。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

かぜ、下痢がもっとも多い。

(2) 風土病・伝染病

これといった風土病はない。ただし、衛生状況がよくないことから地方ではコレラ、ペスト、ジフテリアなどの伝染病流行の噂もでる。1993年10月にはコレラ騒ぎで国境封鎖といった事態が発生した。

(3) 有害動物、病害虫

特にない。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

アルマトイについては、比較的飲料水の水質はよいが、煮沸して飲むことが望ましく、直接の飲用は避けた方がよい。ミネラルウォーターの入手はできるが、煮沸で十分である。

(2) 濾過器の入手法

日本から持って行く必要がある。

(3) その他の留意点

夏季の衛生状態には問題も多く、コレラ、ペスト、ジフテリアの流行騒ぎもあるので、消化器系の病気には注意する必要がある。

野菜、果物などの残留農薬に注意する必要がある。

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

教育制度は非常によく整備されている。初等教育から大学、技術専門学校の高等教育機関も十分に普及しており、国民の教育水準は比較的高い。ロシア語教育が主であり、英語教育は十分に普及していない。

近年、アメリカンスクールがアルマトイに開校された。

子弟の現地での教育に関しては、まだ設備、教育環境とも十分ではない。

(2) 日本人学校

ない。

(3) 現地校、外国人学校

初等教育で英語により授業が行なわれるのは、アメリカンスクールのみである。

5-2 入学手続および授業料

該当情報なし。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

施設はあるが、蔵書はロシア語書籍のみである。

(2) スポーツ施設

プール、テニスコートはない。スポーツクラブなどはない。

6. 家庭の使用人

6-1 一般事情

国情から運転手、メイドなど家庭での使用人の雇用はほとんどない。教育水準も高く、なんらかの仕事がある現状では、使用人の雇用は一般的ではないが、インフレ、低賃金など経済状況が悪化しているため、潜在的な供給のポテンシャルは高く、メイドなどの雇用はそれほど困難ではない。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

公共交通機関のトロリーバス、バス、路面電車がもっとも一般的であり、料金も非常に安い。タクシーもあるが、公営であるにもかかわらず割高の請求をしてくる運転手が多い。

街なかの通りは信号制御されており、車の数も増加傾向にあるが、渋滞などはごく一部の路線に限られている。車、歩行者とも交通マナーが悪く、運転、歩行には十分注意を要する。

(2) 自家用車を利用する場合

ガソリンの質が悪いうえに入手が困難で、ガソリンスタンドは行列をつくることが多い。輸入ガソリンも出回っているが、品薄で入手困難なことが多い。

外国車はベンツ、BMWなどがわずかに走っているが、ほとんどはロシア製の車でボンコツが多く、日本製の車はメンテナンスに関して問題がある。市内にはベンツの販売店があり、輸入車は急増している。

運転マナーが悪く、高速運転が多い。

(3) レンタカーなどを利用する場合

Hertz などのエージェントが営業しており調達が可能なほか、個人的に車を持っている運転手を 1日30ドル程度で借り上げることが可能である。

(4) 道路地図

道路地図は販売されていない。一般的に地図類の入手はほとんど不可能である。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

衝突事故などは現場の車を動かさないで警察に連絡し、警察官の現場検証を待つのが一般的である。

(2) 盗難

盗難事件が急増しており、盗難防止装置などの設置が必要である。

保険会社による盗難保険などはない。

7-3 車の修理

(1) 部品

日本車の代理店などはまったくなく、部品の調達は非常にむずかしい。ロシア製の車も同様である。

(2) 修理工場

きわめて少ない。

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

電話設備は旧式のものが多く、通信事情は非常に悪い。アルマトイ市内は電話回線もある程度整備されているが、混線、不通が頻繁であり、雑音などで聞き取りにくいことがある。

電話料金は非常に安い。

(2) 国内電話

料金は月払いで電話局に払い込む。

(3) 国際電話

日本への通話は、国際衛星回線により通話状況は非常によい。料金は1分につき3ドル程度である。

8-2 電 信

(1) テレックス

テレックスは普及していない。

(2) ファクシミリ

モスクワへのファックスは送信状況が悪く、判読できないことがあるとともに、なかなか通じにくい。日本へは電話と同様に通話状況はよい。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

郵便事業の信頼性、効率は非常に悪く、国外郵便はもとより国内郵便でさえ信頼性は低い。市内郵便物でさえ1週間もかかることがあり、紛失するケースも多い。

郵便ポストに投函することは禁物である。

9. マスコミ

9-1 新聞

新聞はロシア語のみである。

9-2 ラジオ

- (1) ラジオジャパン
受信が可能である。

9-3 テレビ

- (1) テレビ放送局

テレビは国内制作の番組のほか、ロシアからの番組も放送されている。英語放送の番組はCNN衛星放送が受信可能であるが、受信機器を個人的に設置する必要がある。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

カザフスタンホテルの近くに映画館があるが、上映は三流映画がほとんどである。

(2) 劇場

季節によって演奏会などがある。

10-2 出版・書籍

(1) 一般事情

旧ソ連で出版された書籍のみであり、ロシア語ばかりである。書籍の印刷はロシア領土内で行なわれていたために、近年は新しい出版物はない。

(2) 書店

数はきわめて少なく、おかれている書籍も種類は少ない。

10-3 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

旧ソ連時代に整備された博物館や美術館があり、民族色豊かな展示内容となっている。旧体制で芸術活動が奨励された影響か、美術館の展示はにぎやかで、多くの画家の作品が展示されている。

10-4 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

カザフスタンホテルのなかにカジノがある。入場料は10ドルである。それほど客は入っていないが、外国人がほとんどである。

(2) 芸能興行

カザフスタンホテルのレストランでの舞踏ショー以外に主だったショーはない。

10-5 スポーツ

(1) ゴルフ

ゴルフ場はない。

(2) テニス

テニスコートはない。

(3) 水泳

プールはないが、夏季は街なかの噴水施設が子供の水遊び場になる。

(4) その他のスポーツ、用具、ウェア

国際競技が開かれるスケートリンクがあり、冬季はスケートが楽しめる。また、スキー場もあり、スキーもできる。

(5) スポーツクラブなど

10-6 風俗営業

街なかに大きな規模の公共サウナがあり、さまざまな種類のサウナバスが楽しめる。利用には予約が必要であるが、電話などでの予約は不可能であり、直接出向いて予約を取る必要がある。共同風呂のほか、個室利用も可能である。

11. その他のサービス

11-1. 美容院

美容院、理髪店は主なホテルや街なかになり、料金も安い。剃刀などの消毒など、衛生管理はあまり行き届いていない。

12. 観 光

12-1 主要観光地・保養地ガイド

アルマトイ近郊に「メデオ」と呼ばれる山間のレジャー・観光地があり、夏季はアウトドアライフを求めて人が集まり、冬季はスケートリンクがあるのでスケートが楽しめる。スケートリンクの奥の山間には、ダムが築造されており、ダム堤からの眺めはよい。ダムの奥は山歩きができる。

そのほかに特記すべき観光地はない。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

電話が不通の場合を除き、日本大使館あるいは日本への国際通話は可能であるが、モスクワなど近隣諸国への通話は、正常時でもむずかしい。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

強盗などの事件が徐々に増えているので、夜間のひとり歩きなどは控えた方がよい。また、車両盗難は急増しているので防犯対策が必要である。

カザフスタンホテルの前には現金を落として拾わせてから詐欺を働く人がうろついている。また、バザール近隣は治安が悪く、注意を要する。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入国時

(1) 空港施設概要

空港内はサービスの点で非常に遅れており、荷物運び用のカートもなく、ポーターもない。

(2) 入国審査

入国審査はいたって簡単であり、ビザがあれば特段問題はない。

(3) 税関検査

税関検査もない。

(4) 空港からのトランスポート

バス、タクシーが利用できる。タクシーの場合、市内までは20分程度の距離である。

(5) その他の留意点

外国人の金銭の使用——銀行制度の整備が極端に遅れており、外国為替の送金を扱う銀行はない（あっても実質的な用はなしていない）ので為替送金は不可能である。

また、クレジットカード（一部のホテルを除く）、トラベラーズチェックの使用もできない。ドルキャッシュであれば、ほとんどの場所で使用ができるが、高額ドル紙幣のおつりがない場合があるので、小額紙幣を多量に持ち歩く必要がある。

送金——日本大使館、商社の事務所があり日本人が滞在している都市（アルマトイ、タシケント）でもモスクワで銀行口座を開設して必要に応じて生活費、公金を引き出しているのが一般的である。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

一般カウンターとは異なるインツーリスト専用カウンターで出国手続をとることとなるが、どの窓口に行けばよいのかは非常にわかりにくい。

15. 私財の輸送、引き取り、購入
該当情報なし。

16. 社 交

該当情報なし。

17. 任国官公庁

当面の日本からの技術協力にかかわる窓口官庁は、下記のとおりである。

National Agency for Foreign Investment

Aid Management Unit TEL (3272) 69-45-29

18. 在外日本関係機関など

在カザフスタン共和国日本大使館

Makataeva Street 47, 3rd Floor, Almaty

TEL (3272) 30-4238、30-4765

19. 地方都市
該当情報なし。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルです。したがってご利用はJICAの用務による業務渡航者に限らせていただいております。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステータスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

アジア地域

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア
(ジャバ、スマタラ、スマタラ、スマタラ)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、プーケット)
18. ヴィエトナム

中近東地域

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. ジョルダン
5. クウェイト
6. モロッコ
7. オマーン
8. カタール
9. サウディ・アラビア
10. スーダン
11. シリア
12. チュニジア
13. トルコ (イスタンブール、イスタンブール)
14. アラブ首長国連邦 (ドバイ)
15. イエメン (サナア)

太平洋地域

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. パラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア

欧州地域

1. カザフスタン
2. キルギスタン
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン

アフリカ地域

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. コートジボアール
11. ケニア
12. リベリア
13. マダガスカル (アンタナナリボ、ディエゴ・スレス)
14. マラウイ
15. モーリシャス
16. モザンビーク
17. ニジェール
18. ナイジェリア
19. ルワンダ
20. サントメ・プリンシペ
21. セネガル
22. セイシェル
23. ソマリア
24. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンザール)
25. トーゴ
26. ザイール
27. ザンビア
28. ジンバブエ

中南米地域

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サントクルス)
3. ブラジル
(ブラジリア、リオデジャネイロ、サンパウロ、ポルトアレグレ、ベレン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグァイ (アスンシオン、エンボアプラタ)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダード・トバゴ
18. ウルグァイ
19. ヴェネズエラ

任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見（説明不足、間違い、誤字、脱字、ご要望など）をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任国情報に関する事のみ具体的にご指摘くださるようお願いいたします。

【送付先】 〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5
 国際協力事業団国際協力総合研修所
 技術情報課 任国情報係

国名		年度	
----	--	----	--

氏名		年齢	歳	性別	男・女
利用区分	所属(担当)部課名	指導科目		派遣期間	
JICA役職員		/		/	
JICA専門家等					
その他		(所属先)		(当該国での滞在期間)	
住所					
電話番号		日付	年	月	日

ページ	行	内 容

国 総 研 記 入 欄					
記 事		技術情報課確認印			
		データベース修正処理	課長	代理	担当
		月 日	月 日	月 日	月 日

「任国情報（カザフスタン）1994年版」

平成6年3月31日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03)3269-2357

編集協力

財団法人 日本国際協力センター

